世間解　第三九七号
令和三年三月
発行　西法寺

念仏もうさるべし

―学仏大悲心（仏の大悲心を学ぶ）結び―

三月、春の気配を感じるこの頃であります。皆さまには阿弥陀さまのご本願のおはたらきの中「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ご相続のことと存じます。昨年からお聞かせをいただいている梯實圓和上の西法寺での最期のご法話。いよいよ結びであります。ご聴聞させていただきましょう。

『…我々は仏さまの教えを聞かせていただくこと。それが一番大事なことなんですね。真実の標準をきちっと決めていかなならんのです。

御開山はね、真実功徳釈といいまして、非常に大事なお言葉を『教行証文類』の中で展開されていきますけどね、如来さまの智慧と慈悲、これが真実の典型なんですね。この智慧と慈悲によってつくられた世界、それを浄土とよぶんです。お浄土ってのは、如来さまの智慧と慈悲が描き出してくださった世界なんです。私たちの描いている世界は自分の都合が描き出した世界です。だから、好きな人と嫌いな者と作り出すでしょ。敵と味方と作り出すでしょ。争いの元を作り出すでしょ。どこまでいってもケンカが尽きない。死ぬまでケンカし続けるしかない。そういう虚構の世界を我々はさまようてるわけです。それを喚び覚まして、“幻にとりつかれ、幻を追い求めて、一生を棒に振ったらだめだよと”と我々に喚びかけてくださっているのが如来さまのお言葉ですね。一番はっきりしてるのは、「じゃあどう生きたらいいんですか？」っていったら、一番端的にはね、我々は普通で言うたら何のために生きてるかって言われたら、そりゃ幸せになりたいから生きているんだっていうでしょう。誰が幸せになりたいんだ？それが問題ですな。「そりゃ自分ですよ」って言うでしょ。あるいは「自分の子ですよ、自分の孫ですよ」というでしょう。それが間違いの元だろうな。自分以外の者に不幸せを押しつけて、自分の身内だけが幸せを占領しようと考えている。そいつが争いの元。そいつが問題の元になる。

だから求めるべきもんは、“人々の幸せ”なんだ。人々の安らぎを求める。自分の安らぎじゃない。自分の幸せのために、人に不幸せを押しつけるなんて生き方やめて、「不幸せは私が引き受けるから、あんた方幸せになってくださいよ」と、ウソでもええから一遍言うてみる。そういう癖つけるこっちゃ。気持ちええで。幸せは皆おれがもらう、不幸せはみんなお前に押しつけるって言うただけでも気色悪いわ。だから今言ったように、“幸せはあなた方どうぞ安らかに生きてくださいよ、そのために引き受けられることなら、つらいことや悲しいことは私が引き受けさせてもらいましょう”と、ウソでもええさかいに言うてみることですわ。

言うてみるうちにね、あ～どうもこれ生きてる間はあかんでこれは…となったらね、あっ、お浄土へ往くってのはそういうことだったんだなって分かる。浄土へ往くっていうことは、これから忙しなるってことでっせ。今、私たちが仰いでいる阿弥陀さまがなさっていることを今度は私が、この世で死んだ瞬間から、私が人々の苦しみを、苦難を引き受けて、人々を幸せにするために生きていくんだ。そういう聖者になる。それが浄土へ往くということです。だから浄土へ往くっていうことをそういうこととしてもう一遍捉え直して、そっからこの人生を全部ひっくり返して、考え直してみる。そういう人生観の転換ていうものをね、それを如来さまが我々に教えてらっしゃる。それを反対にしてしもてな、幸せは私が不幸せは人々に押しつける、こういう生き方だけはあさましい。これは浅はかであり、あさましいことだ。それだけをまず第一に、はっきり味わっていきましょうな。

それが大事なことでしょうね。何したかっていうことよりも、どういう思いで生きようとしたかっていう、それが最後の思い出になるんと違うかな。自分の人生の。死にかけ一番死にやすいで。一遍、やってみなはれ。どんな考え方、生きた方が死にやすいか、生きやすいか、一遍考えてみたらいいですな。

あっ、時間経ってもうた。長話になってしもた、じゃあ今日はこれで置きます。どうも失礼しました。なんまんだぶ、なんまんだぶ…』

合掌